



平成28年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2016/11/1 現在

【財務分析】

第1問（34点）

問1 C 問2 B 問3 C 問4 B 問5 C 問6 A 問7 D 問8 A
問9 C 問10 B 問11 D 問12 C 問13 B 問14 D 問15 D 問16 A
問17 B

第2問（12点）

問1 C 問2 A 問3 A 問4 D 問5 B 問6 D

第3問（18点）

I

問1 E 問2 C 問3 D

II

問1 B 問2 E 問3 A

III

問1 D 問2 A 問3 C

第4問（26点）

(1)

① G ② C ③ J ④ F
ア E イ B ウ D

(2)

⑤ I ⑥ D ⑦ E

(3)

⑧ D ⑨ I ⑩ E
エ E オ C カ B キ A

(4)

⑪ H ⑫ I ⑬ B ⑭ C
ク B ケ E コ D サ C シ A

11/1 訂正 第2問 問1 誤D → 正C 第3問 II 問3 誤C → 正A

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2016証券アナリスト1次試験（秋）

「財務分析」

2016年（秋）試験は、例年通り大問4問の出題で、各大問への配点も同じであった。第3問の計算問題の難易度が高い一方で、分析総合問題は高得点が可能な内容であり、全体として例年通りのレベルであったと思われる。具体的な内容は、以下のとおりである。

第1問の正誤選択問題は、17問の出題であった。財務会計を中心とする出題であり、株式価値評価についての出題がなかった。会計プロセス、継続的役務提供、ヘッジ会計、外貨換算会計は、難易度の高い内容であった。その他は、標準的な内容であった。

第2問の個別計算問題は、6問の出題であった。連結会計における内部取引の相殺と棚卸資産に含まれる未実現利益の消去は、正誤選択では出題されることがあるものの、計算問題では初出であった。他の問題は、頻出の論点といえ確実に得点しておきたい内容であった。

第3問の総合計算問題は、9問の出題であった。Ⅰ純資産の部、Ⅱ合併会計、Ⅲ株式価値評価について3問ずつ出題された。Ⅰの包括利益の計算、Ⅱののれんに関する正誤選択は難易度の高いものであった。Ⅲの株式価値評価については、頻出の論点であり、3問完答が望まれる内容であった。

最後の第4問の分析総合問題は、財務データが国際会計基準に基づいていた点、金額単位が円とユーロに分かれていた点は、一見すると紛らわしさを助長していたものと思われる。ただし、表記された財務データそのものは、日本基準と変わらず、また、実数値比較ではないことから、金額単位の換算処理も必要なかった。内容としては、ROEのデュポン・システムによる分解、百分率損計算書、資本回転率、安全性分析といったオーソドックスなものであり、冷静に対処できれば、十分に満点を狙える問題であったと思われる。

以上

TAC 証券アナリスト講師室